



継続は力だったのか？

甲藤 正人†

Did My Endurance Make Me Stronger?

Masahito KATTO†

まさか、このレーザーコンパスに自分が執筆することになろうとは、考えてもみなかった。なぜなら、この欄は先生方が何かしらの示唆を与える記事であり、私はそんな大それたことを書く柄ではない、と考えていたからであり、現在執筆しながらも、そう感じている。当初は書けませんとお断りすることも考えたが、私もその位の年齢になり、順番で執筆依頼が来たのだということだと納得し、お引き受けすることとした。

レーザーとは、卒業研究で出会って以来、すでに30年以上、つまりはこれまでの人生の半分以上をレーザーとつきあっている。途中、一度は離れたものの、そこにレーザー関係のテーマをこじつけて設定した。最終的には光・レーザー研究分野に戻り、現在に至っている。研究においては、主に電磁気、それと固体物理と量子力学を学問的な基礎としているが、振り返ってみると、これらはいずれも学部生時代には、式、内容を覚えるのに苦労した記憶がある科目ばかりであり、当時は単位は取ったものの理解したとは言い難い状況であった。現在では、光と電子、固体内でのエネルギー伝搬など、それぞれの式を完璧に記憶しているとは言い難いが、自分自身が定性的には体系的に理解できているかも？と感じているが、これは最近になってからである。また、実験時に必要となる制御・信号・計測系の取り扱いでは、学生時代は苦手だった電気回路、電子回路を活用している。先日でもレーザーからの信号を基として、計測系トリガー信号を同期制御させるのに必要なフリップフロップ回路を自作した。本を引っ張り出し、部品を選定し基板上に製作した。苦手とはいえ、まったく苦ではなく、むしろ時間が割けることが楽しく、完成の喜びも久々に味わった。がしかし、哀しいかな、寄る年波には勝てず、作業中は部品の確認と半田付けが困難を極め、眼鏡のかけ外しが頻繁に必要であった。これは、レーザーのアライメント時も然りであり、ピントの調節が難しく、自分自身にイラッとする。同世代の多くの方は経験されていることであろう。

考えてみれば、小学生の時はプラモデルづくり、中学生の頃からは電気街に通い、電子工作、マイコン、コンピュータと所謂理科系オタク路線をまっしぐらに歩んできた。そして大学、大学院、大学教員。少しずつ興味は変わったが、オタク路線は変わることはなかった。幼少期から下手の横好きで知りたいこと、やってみたいことを追いつけることができ、なんとか今の仕事が勤まっているのかなと感じている。ありがたいことである。両親に聞いたことがあり、例えば私が質問しても、自分で調べると(嘘か本当か)わざと放っておいたらしい。このおかげで、自ら調べる・手を動かすことが癖となった。大学で卒業研究に携わり、レーザーに出会い、修士、博士と進み、レーザーオタクへの道を歩みだした。先日、家を整理した際に、恩師からのお叱りの手紙が出てきた。きちんと論文をかける様に一層努力せよ！との内容であった。また気が引き締まる思いであり、あれから26年、今の自分はどうか、果たしてオタクとして深化し完成したのか、などと考えた。また春には、もう一人の恩師が、最後のご挨拶もできぬままに旅立たれてしまった。考えてみれば、今の自分は初めて出会った頃の恩師の年齢を優に超えており、次の世代どころか、それ以降の世代を育てるべき年代である。教員になりたての頃に比べれば、随分と角が取れた気はするが、根本的な考えは変わってない。残念ながら、今のポジションには直接に指導する学生はいないが、補助的な形で工学部学生の教育・研究に携わっている。教科書の字面の下、普段の実験とディスカッションの下に流れている根本的な考え方を掴むのが重要だと考えている。が、こればかりは教えられても身につくものでもないだろう。顧みると何かをつくる、知ることを続けた、続けられたことが今の自分に繋がっている。あと暫くは、この分野でオタクを極めようと考えているが、もしパラレルワールドがあって、そこに文系人間の自分があるのであれば、ちょっと見てみたい気はする。

やはり、単におっさんの説教じみたとりとめの無い昔話になってしまった。この辺で失礼する。

† 宮崎大学 産学・地域連携センター(〒 889-2192 宮崎市学園木花台西 1-1)

† CRCC, University of Miyazaki, 1-1 Gakuen-Kibanadai-Nishi, Miyazaki 889-2192